

教育課程編成委員会

2013年11月26日(火)

19:00～21:00

於東京YMCA医療福祉専門学校

出席者： 白井幸久氏(K) 三沢幸史氏(OT)
望月太敦氏(K) 小檜山修平氏(OT)
倉持有希子氏(K) 上松剛氏(OT)
八尾勝氏(K,OT)

列席者： 林恵子氏(K,OT) 渡邊義昭氏(K)
加藤和貴氏(OT)

<作業療法学科部会>

進行：学科長 記録：加藤

1. 教科の概要について説明 学科長

カリキュラム説明

- ・一年 基礎科目 専門基礎科目 演習 I
- ・二年 主に専門科目 演習 II 評価 I II
- ・三年 専門科目 総合実習 I II
- ・身障分野 各教科の時系列一覧表配布、説明

2. 質疑応答 一同

【三沢先生】

<カリキュラムについて>

- ・今後カリキュラム変更予定するのか

→ 上松 そうしたい 現場で動けるOTを育てていきたい。

- ・今のカリキュラムも内容次第でそういった方向へ行けるのでは。
- ・一般教養が最初だけなのはもったいない。ある程度学んでからの良さもある。
- ・三年制は逆に今見直されているのでは。そういった部分を踏まえてモデルの見直しをしてもよいのでは。
- ・概論のことは今でも覚えている。人間作業モデル前のライリーの頃の話。確固たるものを植え付けられた感はある。
- ・学生が臨床に出ても戻れるような学びを。
- ・学力低下の中での難しさがあるのだと思う。

<実習について>

- ・(実習を丸投げされている感じはあるかという問いに対し)

そういった感じはない。実習指導を若い職員に任せることも多い。

こちらも学ぶきっかけになる。

- ・一部クリニカルクラークシップ取り入れている。特に導入時（二週間くらい）に取り入れている。指導者を手伝っている間に学生も不安が軽減する。
- ・実習開始時に必要な動き（場を離れる時は指導者に必ず伝えるなど）考え（なぜケースに敬意を持つ必要があるのか など）を伝えている。ノウハウを教えている学校も増えている。

【小檜山先生】

<カリキュラムについて>

- ・学校での知識が現場に直接繋がった感じは少ない。「OTとはなんぞや」という部分があいまいなので、ハッキリしたものがあると仕事につながる。学校でもはっきり教わった覚えがない。
- ・実習時その人を捉えることが出来てない。クライアントの思いとズレてしまう。 → ケースを見ていないので踏み込めない部分がある。

<実習について>

- ・消極的というか学校での学びを出すタイミングを見誤り、出し切れなかった学生もいた。

- ・指導開始時 「どういった作業療法士になりたいのか」「どのような実習をやりたいのか」のレポートを書いてもらっている。

【 ま と め 】

- ☆小檜山：理論が必要なのでは。枠組みがなければ他職種にも引っ張られてしまう。知っていればその後の勉強もスムーズ。
- ☆三沢：新人でもきちんと患者や家族に説明する義務があるのでリーズニングの力が必要。ペーパーペイシエントでリーズニングに基づく複数の違う理論で推論を進めると深まるのではないか。同じケースで複数の推論を行う講義はどうだろう。

===時間となり終了===